

2023（令和5）年度 自己評価公表シート

社会福祉法人 弘法児童福祉会
幼保連携型うまこしこやす認定こども園

1. 園の教育・保育目標

- 思いやりのある優しい子ども
- 丈夫で体力のある子ども
- 自分で考えて行動できる子ども

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

2017（平成29）年4月より、幼保連携型認定こども園に移行し、教育保育を一体的に展開している。

【乳児】それぞれの個性に合わせた丁寧な対応を行い、情緒安定を図る。園での健康管理・けが予防に努める。

【幼児】小学校進学へとつなげるため、『10の姿』の項目を伸ばせるよう、教育保育活動の環境づくりを行う。

【職員】安全に業務に取り組むことを第一とする。職員数の増加に対応した連携体制の構築。

【施設】施設設備の定期的な点検・確認を行い、安全で清潔な環境を整える。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況	自己評価
教育・保育活動	<ul style="list-style-type: none">● 3歳以上児から、専門講師による正課教室（体育・英語・音楽・水泳）を年間通して実施し、教育の充実を図っている。● 子どもが達成したことや気づきに対して、肯定的な言葉をかける一方で、禁止言葉や否定言葉を多用しないよう心がけている。	A
個別配慮を必要とする児	<ul style="list-style-type: none">● 個別配慮を必要とする児の特性を理解・共有し、全職員で共通の対応を心がけている。● 保護者や専門機関と情報を共有し、子どもの育ちを多角的に支援できるよう努めている。	A
健康	<ul style="list-style-type: none">● 施設内では適切な温度・湿度を保ちつつ、適宜空気清浄・換気を行い、衛生的な環境を保つよう努めている。● 新型コロナウイルス感染症への対応として、登園前および在園中の体調確認を徹底し、手洗い・うがいを励行するなど、感染防止に努めている。	A
非常災害対策	<ul style="list-style-type: none">● 避難訓練（毎月）、不審者対応訓練（年6回）の実施、また保護者への園児引き渡しも実施している。● 非常設備点検を定期的に行い、作動状況を確認している。セキュリティ会社に非常信号発信時の応援要請を委託している。	A

食に関わる体験	<ul style="list-style-type: none"> ●園庭での野菜栽培、クッキング、芋ほり遠足等、食にかかわる様々な体験の場を設けている。 ●食事のマナーや食べる姿勢など、食事の基本作法を身につけられるよう指導している。 	A
食物アレルギー対応	<ul style="list-style-type: none"> ●食物アレルギー児童に配慮した給食・おやつを提供を行い、様々な食体験ができるよう努めている。 ●食物アレルギー児童に関する情報を保育教諭・調理員と保護者が共有し、提供食材・給食配膳時の確認を徹底している。 	A
情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者への連絡や各種案内等は、連絡アプリによる配信を主とし、紙面配布・掲示を併用している。 ●アプリを活用し、園行事の様子をドキュメンテーション形式にて配信したり、園児の活動時の様子をスナップ写真として配信している。 	A
保護者対応	<ul style="list-style-type: none"> ●保育体験・参観の機会を複数設定することで、園内での様子や教職員・友だちとの関わり方などを実際に確認することができる。 (コロナ禍後、徐々に制限を緩和) ●園に対する要望や感想を聞く機会を設け、頂戴した内容を確認したうえですみやかな対応を心がけている。 	B
小学校連携	<ul style="list-style-type: none"> ●沼垂小学校と計画的な交流を行っており、小学校進学への期待を高め、イメージできるよう配慮している。 ●進学予定の園児に関する情報を小学校と共有し、『小1プロブレム』が起きないように配慮を行っている。 	B
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ●例年、本馬越諏訪社の入園入学祈願祭への参加、特別養護老人ホームくりの木への訪問などを通して、地域との交流を図っている。 (コロナ禍に参加・訪問を中止し、その後再開していない) 	D
<p>自己評価は、A・B・C・Dの基準に基づいて評価する。</p> <p>A：実施できている B：概ね実施できている</p> <p>C：実施できているが、不十分 D：実施できていない</p>		

4. 総合的な評価

新型コロナウイルス感染症が5月に5類へと移行したが、その後も様々な感染症の流行が見られた。園生活や行事については、新たな見直しの年ではあったが、継続する部分と変更していく部分のバランスをとりながら、無理のない範囲で徐々に制限を緩和し、移行していくことを心がけた。

当園は0歳児からの入園世帯が非常に多い。核家族や共働き世帯の比率が高く、保護者の方は子育てに対する不安や、育児・家事・仕事の両立など、多くの面でサポートを必要としていると感じる。日々のやりとりや行事等を通して、共に子どもの成長・発達を促していけるような取り組みが求められている。また、幼児期になると、教育に対するニーズも高まるため、引き続き、各種正課教室を継続していく。

ICTを活用した取り組みは導入から7年が経過し、教職員および保護者に浸透している。さらに、業務の省力化・効率化をはかり、余裕を持った職員配置を今後も継続し、職場環境の改善に努めていく。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具 体 的 な 取 り 組 み 方 法
教育・保育活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 5月に新型コロナウイルス感染症が5類へと移行したが、その他の感染症（インフルエンザ・アデノウイルス・溶連菌感染症など）が度々流行し、クラス単位での感染拡大が見られた。子どもたちが免疫を獲得する過程ではあるが、引き続き感染防止対策をしながら、様々な活動のバランスを図っていく。 ● 社会において、園児の所在確認に関する事故が多く起きている。園児が安全に活動できるよう、安全確認や連絡体制の徹底を継続していく。
職員の指導・育成	<ul style="list-style-type: none"> ● ここ数年、新規職員を多く採用している。PDCA サイクルを活用して新規職員の成長を促し、業務の維持向上に努めていく。 ● 各クラスに指導的役割を担う職員を配置し、活動中に的確な指導ができるような環境づくりを行う。
職員間の情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ● 業務のICT化により、共有できる情報や指導機会が増えた半面、情報の背景にあるものや指導の意図や理由まで伝えられるよう、補足説明や直接的な対話を充実させる必要がある。 ● 教職員に法人の理念や経験者による直接的な指導育成が重要となっている。
施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 園庭の樹木・築山・芝生については、近年の暑さによる影響も大きく、継続的なメンテナンスが必要である。子どもたちが安全に活動できるよう、日々の確認および手入れを行っていく。 ● 園庭の遊具用収納庫が経年劣化している。新しい物の購入を検討している。